



シリーズ211

高めよう!  
人権意識

心のかけ橋

人権推進課  
(☎928-1006)

ユニバーサルデザインの  
まちづくり

ユニバーサルデザインとは

まちには子ども、おとな、高齢者、体の不自由な人、生まれた国や言葉・文化の異なる人など、さまざまな人が一緒に暮らしています。そこで、できるだけ多くの人が使いやすいものや誰もが暮らしやすいまちをつくるということ考え方が「ユニバーサルデザイン」のまちづくりです。

ユニバーサルデザインは、1980年代にアメリカの建築家ロナルド・メイソンを中心として、世界中に呼びかけられました。メイソンさんは小さいときに病気になる、車いすを使っていました。そこで自分の体験から「どんな人にも使いやすいデザインがあればいい」と考え、ユニバーサ

ルデザインの普及に努めました。

7つの原則

ユニバーサルデザインには次の7つの原則があります。

- ①誰でも公平に利用できる
  - ②使う上で自由度が高い
  - ③使い方が簡単ですぐに分かる
  - ④必要な情報がすぐに理解できる
  - ⑤うっかりミスや危険につながらない
  - ⑥体への負担が少ない
  - ⑦使いやすい大きさと広さがある
- 例えば、ドアのレバーハンドルは手で握って回すドアノブと違い、上から押すだけで開くので、手の力が弱い人や荷物を持っている人でも簡単に開けられます。また、容器が同じ形をしているシャンプーとリンスでも、シャンプーの容器だけにギザギザの印が付いていることで誰でも触れば区別できます。

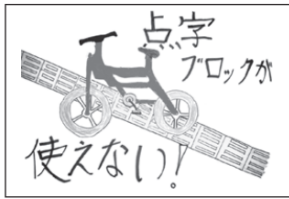


このように、ユニバーサルデザインは私たちの身近な暮らしの中にな

くさんあります。

みんなで取り組む  
「心のユニバーサルデザイン」

一人ひとりの思いやりの気持ち、それが「心のユニバーサルデザイン」です。せつかく道路や建物などを整備しても、使う人が思いやりをもちなければ生かされません。



全ての人にやさしい社会を実現するために、ローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）を育み、行動に移すことが大切です。私たちができることから始めてみませんか。本市では、誰もが暮らしやすい「ユニバーサルデザイン」のまちづくりをめざして出前講座を行っています。利用してください。

※イラストは子ども議会で小中学生が作成したものです

認め合おう みんな違って あたりまえ